

多賀城市文化財調査報告書第72集

# 市川橋遺跡・高崎遺跡

—市川橋遺跡第30次調査—

—市川橋遺跡第36次調査—

—高崎遺跡第42次調査—

平成15年9月

多賀城市教育委員会

## 序 文

多賀城市は、特別史跡多賀城跡をはじめ多くの遺跡が存在します。その大部分は、多賀城の置かれた奈良・平安時代の遺跡であります。の中でも、多賀城跡の南面一帯は、古代のまち並みが存在することが明らかになっています。このまち並みは、『日本三代実録』に「城下」として一度登場しますが、その存在は全く知られていませんでした。一つ一つの発掘調査成果の積み重ねがその存在を明らかにしたといっても過言ではありません。

さて、本書は市川橋遺跡第30・36次調査と高崎遺跡第42次調査の発掘調査報告書であります。これらの調査では、奈良・平安時代の掘立柱建物跡をはじめ、竪穴住居跡・水田跡・土器埋設遺構などを発見し、多賀城外のまち並みを復元する上で貴重な成果を提供するものとなりました。

最後になりましたが、発掘調査の実施や本書の刊行にあたり、多大なご協力をいただきました多くの方々に対し感謝の意を表します。

平成15年9月

多賀城市教育委員会

教育長 櫻井 茂男

## 例　　言

- 本書は平成14年度に実施した市川橋遺跡第30次調査、平成15年度に実施した市川橋遺跡第36次調査、高崎遺跡第42次調査の成果をまとめたものである。
- 遺構の名称は、各遺跡の第1次調査からの一連番号である。
- 測量法の改正により、平成14年4月1日から日本測地系に代わり世界測地系に従うことになったが、本書中の各調査で使用した座標値は、従来の国土座標「平面直角座標系X」を用いて設定している。
- 挿図中の高さは、標高値を示している。
- 土色は、『新版標準土色帖』(小山・竹原：1996)を使用した。
- 瓦の分類については、多賀城政府の分類(『多賀城跡 政府本文編』宮城県多賀城跡調査研究所1982)に従った。
- 本書の執筆は、調査員全員の協議のもとにI-1・IIを斎藤稔、IIIを鈴木孝行、I-2・IV-1・3を武田健市、IV-2を文屋亮が担当し、編集は鈴木孝行が行った。また、資料整理に際しては臨時職員熊谷純子、浦風志恵子、小野寺雪子、渡辺奈緒、坂本英美、横山佳織、小岩博江、今野妙子の協力を得た。
- 調査に関する諸記録および出土遺物は、すべて多賀城市教育委員会が保管している。

## 目　　次

I	市川橋遺跡・高崎遺跡の概要	1
II	市川橋遺跡第30次調査	2
III	市川橋遺跡第36次調査	9
IV	高崎遺跡第42次調査	17

## 調査要項

1	調査主体	多賀城市教育委員会	教育長	櫻井茂男
2	調査担当	多賀城市埋蔵文化財調査センター	所長	高倉敏明
3	調査概要			
	道　跡　名	所　在　地	調査面積	調　査　期　間
	市川橋遺跡第30次調査	浮島字矢中地内	582m <sup>2</sup>	平成14年10月31日～12月5日
	市川橋遺跡第36次調査	浮島字高平地内	52m <sup>2</sup>	平成15年4月10日～4月23日
	高崎遺跡第42次調査	留ヶ谷一丁目地内	268m <sup>2</sup>	平成15年5月6日～5月20日
4	調査協力者	岩見和泰　佐久間光平(宮城県教育庁文化財保護課)	志賀一夫	
		宮城県教育庁文化財保護課	多賀城市城南土地区画整理組合	日本住宅株式会社
		タクミホーム株式会社		
5	調査参加者	赤間かつ子　浅野喜久男　浅野忠　阿部弘　遠藤一代　及川光江 大場勝喜　大山貞子　小笠原マキ子　長田栄太郎　小野玉乃　小野寺恵子 小幡武　菅原吉明　鈴木太伸　鈴木寿二　高橋宣子　武山あや子 塩井一征　早坂剛　平山節子　藤沢拓司　宮川ハルミ　宮下喜代平 田中裕子　宮本一男　山下裕子　渡辺ひで子　渡辺ゆき子		

# I 市川橋遺跡・高崎遺跡の概要

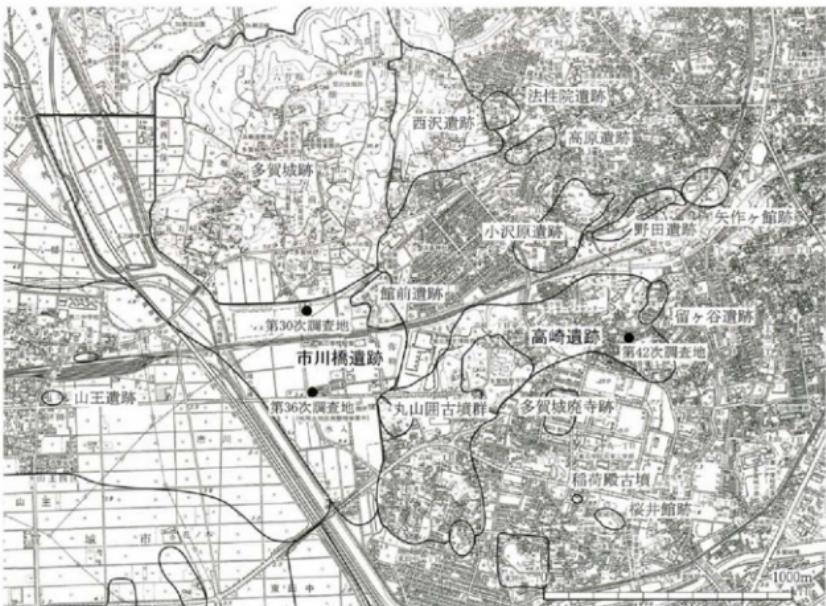
## 1. 市川橋遺跡

市川橋遺跡は、特別史跡多賀城跡の南側および西側に位置しており、標高2～3mの沖積地に立地している。その範囲は東西約1.4km、南北約1.6kmであり、総面積約703,000m<sup>2</sup>におよぶ広大な遺跡である。これまで大部分が水田として利用されていたが、近年の宅地造成や道路整備などにより、その景観は急速に変わりつつある。

本遺跡は弥生時代から平安時代にかけての複合遺跡である。これまで実施された発掘調査において多くの成果が挙げられているが、最も注目されるのは多賀城南面に施行された古代の方格地割りの発見である。これは南北大路、東西大路と呼んでいる二つの主要道路を基準とし、東西・南北の直線道路によっておよそ1町四方の区画を形成したものである。その範囲は、東西約1.1km、南北約750m以上におよび、内部からは掘立柱建物跡や井戸など多くの遺構が発見されている。

## 2. 高崎遺跡

高崎遺跡は多賀城市中央部にある低丘陵の南西端部に位置しており、特別史跡多賀城廃寺跡を取り込むように、南北1.1km、東西1.2kmの範囲に広がっている。本遺跡では、これまでの調査により、古墳時代から近世に至る遺構・遺物を数多く発見している。



第1図 調査地の位置

## II 市川橋遺跡第30次調査

### 1. 調査に至る経緯と経過

本調査は、中央公園の管理棟建設に伴い実施したものである。中央公園は平成5年度に事業認可を得て整備が行われている。この管理棟は、平成9年度に整備計画の見直しが行われ、現在の位置に建設することになった。管理棟の施設内容については平成11年度に、施設課との事業に関連する文化財課及び商工観光課との協議の結果、文化財のガイダンス施設も併せたものとされた。平成13年度には施設課との間で埋蔵文化財の取り扱いについて協議が行われ、建物の基礎工法は地下に影響を与えるパイプ工法で行うことから、平成14年度に事前調査を実施することになった。同年10月30日付で発掘調査の依頼があり、31日から重機による表土除去を行った。11月11日から遺構検出作業を開始し、水田跡を発見した。13日には水田が2時期の変遷があることを確認した。15日には、遺構の検出状況を撮影し、水田跡より古い杭列跡を発見した。29日には完掘状況を撮影し、12月5日に調査を終了した。

### 2. 調査成果

#### (1) 基本層序

I a 層 現代の盛土層 層厚74cm~1.2m

I b 層 現代の水田耕作土層 層厚28~55cm

II a 層 調査区の東端部に堆積する灰色粘土層 層厚11~24cm

II b 層 調査区の東端部を除く全域に堆積する暗オリーブ灰色粘土層 層厚2~25cm

III 層 地山 灰オリーブ色砂層 遺構検出面

#### (2) 発見した遺構と遺物

発見した遺構は、水田跡1面、杭列跡1条、土壙4基、溝跡5条である。これらは全て地山面で発見した。

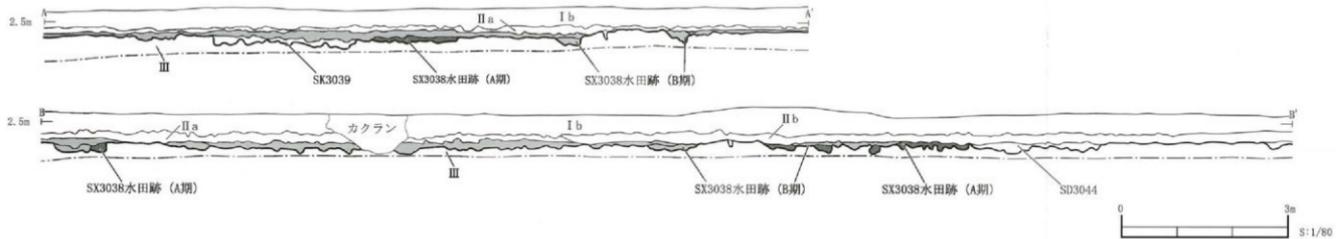
#### SX3038水田跡

遺存状況が悪いため畦畔を検出することはできなかったが、擬似畦畔を平面的に発見したため水田跡として認定した。水田跡は調査区の全域にわたって発見した。SK3039・3040・3042、SD3043・3044・3045・3046、SA3056と重複しており、SK3040・3042、SD3043・3046、SA3056より新しく、SK3039、SD3044・3045より古い。全ての水田跡が調査区外へ延びているため、全体を把握できたものはない。A期→B期の2時期の変遷を確認した。

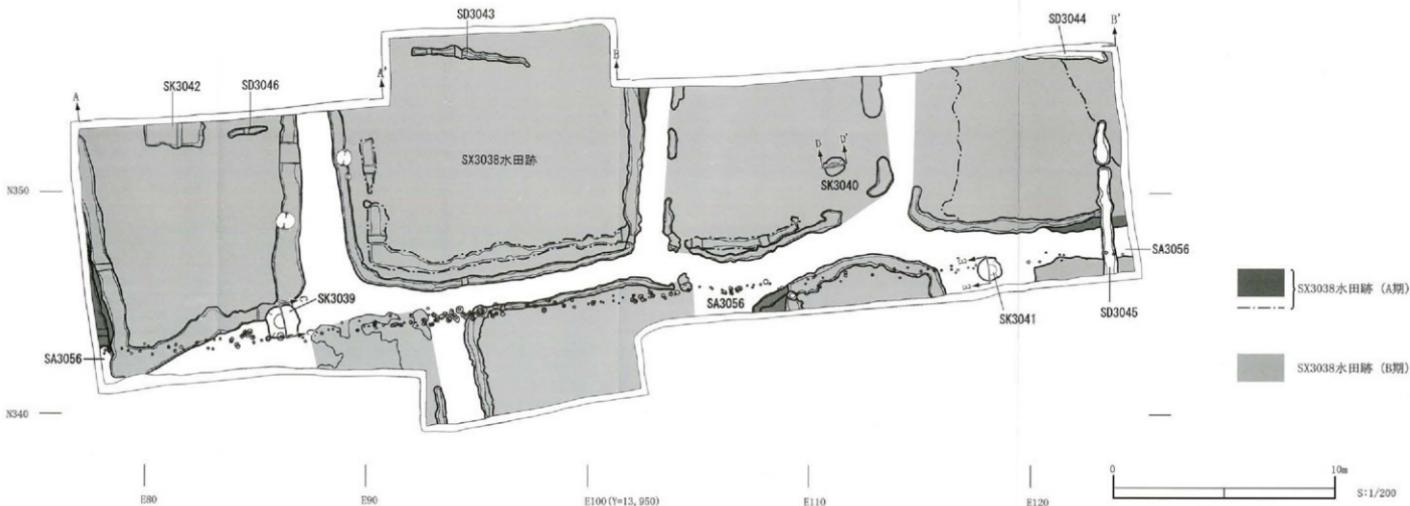
A期：B期の水田によって壊されているため、発見できたものは5区画である。確認できた一辺の規模は11.8mである。擬似畦畔に沿って幅21~93cm、深さ11~18cmの小溝を確認できた。耕作土は1層確認でき、地山ブロックを多量に含む黄灰色粘土である。遺物は出土していない。



第2図 調査区位置図



N360 —  
(X=188, 840)

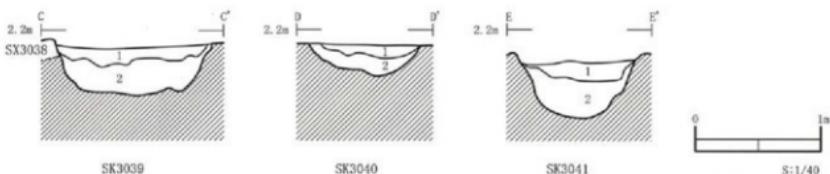


第3図 遺構平面図・断面図

B期：確認できたものは8区画である。A期とほぼ同位置につくられている。確認できた一辺の規模は6.8~13.1mである。擬似畦畔に沿って幅0.2~1.3m、深さ12~22cmの小溝が確認できた。耕作土は2層確認でき、1層は灰白色火山灰をブロック状に少量含むオリーブ黒色粘土で、2層は黒褐色粘土をブロック状に含む灰色粘土である。擬似畦畔の規模は、幅1.0~2.2mである。遺物は土師器杯・甕、須恵器甕、丸瓦（II類）が出土している。

#### SA3056杭列跡

調査区南半部で発見した東西方向の杭列跡である。打ち込んだものと掘り方を持つものとがある。確認できた長さは46.8mである。調査区の外へ延びているため、全体は把握できなかった。SX3038、SK3039・3041、SD3045と重複しており、それより古い。方向は東で17度12分北に偏する。掘り方はおおよそ円形で、規模は直径11~30cm、埋土は地山ブロックを含む灰色砂質土である。いずれも木質は残っておらず、オリーブ黒色粘土の柱痕跡として確認できた。柱痕跡の平面形はおおよそ円形であり、規模は直径6~13cm、深さ12~20cmである。



第4図 土壌断面図

#### SK3039土壤

調査区西半部で発見した。SX3038と重複しており、それより新しい。平面形はほぼ円形であり、規模は直径1.4m、深さは45cmである。底部は概ね平坦であり、壁は一部急角度で立ち上っている。埋土は2層に分けられ、1層はオリーブ黒色粘土、2層は灰色粘土と石灰質の石と砂を含む黄灰色粘土である。遺物は出土していない。

#### SK3040土壤

調査区東半部で発見した。SX3038と重複しており、それより古い。平面形はほぼ円形であり、規模は直径91cm、深さは26cmである。底部には若干凹凸が認められ、壁は緩やかに立ち上っている。埋土は2層に分けられ、1層はオリーブ黒色粘土、2層は小石を多く含むオリーブ黒色粘土である。遺物は出土していない。

#### SK3041土壤

調査区東半部で発見した。SX3056と重複しており、それより新しい。平面形はほぼ円形であり、規模は直径1.1m、深さは50cmである。底部は中央がやや窪んでおり、壁は急角度で立ち上っている。埋土は2層に分けられ、1層はオリーブ黒色粘土質土、2層は地山をブロック状に含むオリーブ黒色粘土質土である。遺物は出土していない。

#### SK3042土壤

調査区の西半部で発見した。SX3038と重複しており、それより古い。北側が調査区外へ延びており、

検出した南側の平面形は方形である。規模は南辺が2.5mで、深さは16cmである。底部は凹凸があり、壁は一部急に立ち上がっている。埋土は地山ブロックを含む暗灰黄色粘土である。遺物は出土していない。

#### SD3043溝跡

調査区中央部で発見した東西溝である。SX3038と重複しており、それより古い。長さ5.4m、上幅25～47cm、下幅6～27cm、深さ12cmである。方向は西で4度58分北に偏する。遺物は出土していない。

#### SD3044溝跡

調査区東半部で発見した東西溝である。SX3038と重複しており、それより新しい。長さ3.8m以上、上幅52cm以上、下幅40cm以上、深さ14cmである。方向は西で2度49分北に偏する。埋土は地山ブロックを含むオリーブ黒色粘土である。遺物は出土していない。

#### SD3045溝跡

調査区東半部で発見した南北溝である。SX3038、SA3056と重複しており、それより新しい。長さ6.9m以上、上幅38～76cm、下幅23～57cm、深さ12cmである。方向は北で4度5分西に偏する。遺物は出土していない。

#### SD3046溝跡

調査区西半部で発見した東西溝である。SX3038と重複関係があり、それより古い。長さ1.8m、上幅23～34cm、下幅11～34cmである。方向は西で8度37分北に偏する。遺物は出土していない。

### 遺構外出土遺物

IIa・IIb層より土師器、須恵器、須恵系土器、丸瓦（II類）、平瓦（IA類、IB類）などが出土地に出土した。全体に出土量が少なく、破片のみで図化できるものはない。

### 3.まとめ

今回の調査では、2時期の水田跡1面、杭列跡1条、土壙4基、溝跡4条を発見した。そのうちSX3038水田跡について若干の検討をしてみる。

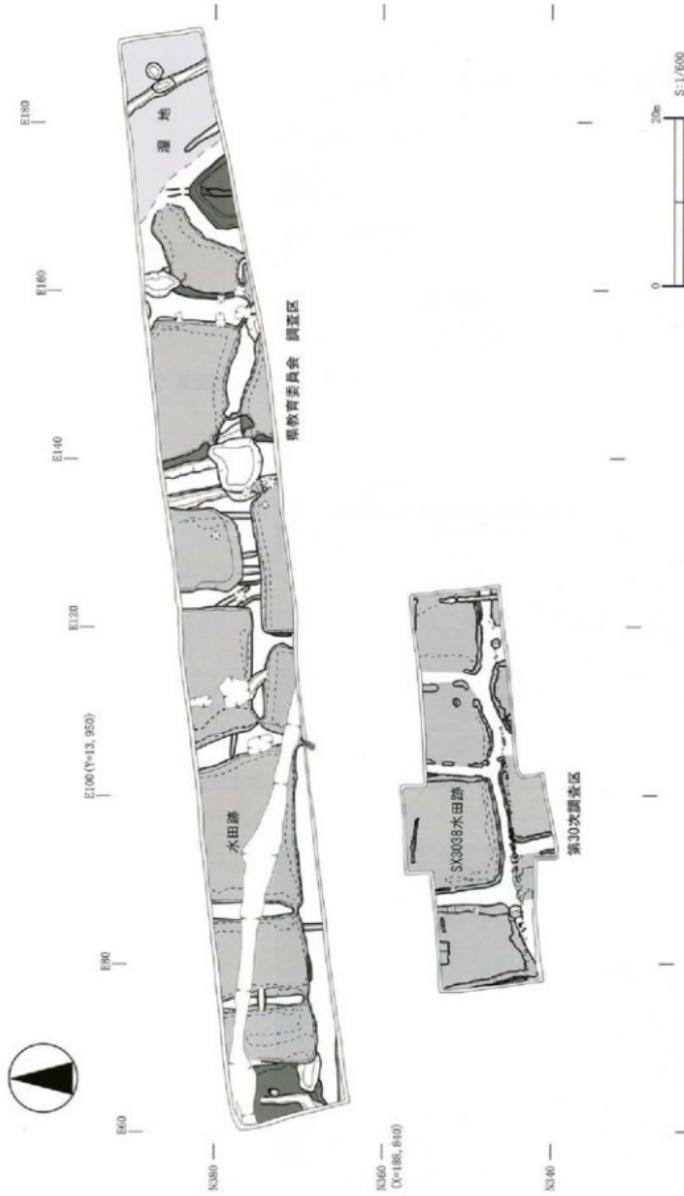
SX3038水田跡はA期→B期の変遷が確認できた。10世紀前葉頃に降下した灰白色火山灰についてはA期の耕作土に含まれておらず、B期の耕作土にはブロック状に含まれている。したがって、A期は10世紀前葉以前、B期は10世紀前葉以降と考えられる。

今回の調査区は、南北大路と北2道路によって区画されており、多賀城の南門から南東に約200m離れた位置にある。また、県教育委員会が北側隣接地で行った調査によると、同時期の水田跡が発見されている。周辺の調査成果と併せて考えると、この付近では10世紀前葉前後に水田耕作が行われていたことが明らかとなった。

### 参考文献

第3回東日本の水田跡を考える会－資料集－ 1990

宮城県教育委員会「宮城県文化財調査報告書第184集 市川橋遺跡の調査－県道『京－塩釜線』関連調査報告書Ⅲ－ 2001



第5図 本調査区と周辺の調査区



調査区全景（南西より）



調査区全景（南東より）



調査区全景（東より）

### III 市川橋遺跡第36次調査

#### 1. 調査に至る経緯と経過

本調査は、城南区画整理地内の住宅兼店舗建設に伴うものである。当該地周辺では区画整理事業に伴う大規模な発掘調査により、まちなみに関わる遺構・遺物が多数発見されている。

今回の建設工事は、基礎工法に鋼管を打ち込むパイロット工法が採用されることから、埋蔵文化財に影響を及ぼすことが考えられた。そのため、事前調査が必要である旨を開発者に打診し協議を行った結果、平成15年3月20日に調査依頼が提出された。

4月8日から調査を開始する予定であったが、雨のため10日から重機による表土剥ぎを行い、翌11日から遺構検出作業を実施した。14日から調査区の壁を精査し、表土を含め5層の堆積層を確認した。15日には土器埋設遺構を発見し、検出状況の写真撮影を行った。16日から平面図作成を開始し、22日に全景写真撮影を行い、全ての調査を終了した。

#### 2. 調査成果

##### (1) 基本層序

調査区全域にわたり盛土が約1.5mあり、その下が厚さ30cm前後の旧水田耕作土である。さらに、その下層では調査区全域にわたって4層の堆積層を確認している。各層の概要は以下のとおりである。

第I層 表土。現代の水田層。

第II層 古代の遺構を覆う黒褐色粘質土層。

第III層 炭化物粒や焼土粒を含む褐灰色砂質土層。上面に灰白色火山灰が部分的に堆積している。この地区周辺においてかなり広い範囲にわたって検出されている。SD3033の検出面である。

第IV層 黒色粘質土層。調査区の東側に分布する。

第V層 暗灰黄色粘質土層。

##### (2) 発見した遺構と遺物

今回の調査において発見した遺構は、掘立柱建物跡2棟、溝跡2条、土壙1基、土器埋設遺構1基である。この他にも小柱穴を多数検出したが、調査区が狭いため建物跡としてはまとまらなかった。

###### SB3036掘立柱建物跡

調査区北半部の第IV層上面で発見した東西2間以上、南北2間以上の掘立柱建物跡である。南側柱列では柱が抜取られていたが、南東隅柱と東側柱では柱材を確認した。SD3034と重複があり、これよりも新



第6図 調査区の位置

しい。方向は東側柱列でみると、北で2度44分西に偏している。規模についてみると、南側柱列で縦長3.5m以上、柱間は西より約1.7m、約1.8mであり、東側柱列は1.67mである。柱穴の平面形は方形であり、規模は1辺30~40cm、深さ50cmである。埋土は地山ブロックと黒褐色粘質土ブロックが混在する土で、柱材は直径13cmである。遺物は抜取り穴埋土から土師器杯、灰釉陶器小碗が出土している。

#### SB3037掘立柱建物跡

調査区北半部の第IV層上面で発見した東西2間以上、南北2間以上の掘立柱建物跡である。西側柱列1間目のみ柱が抜取られている。SX3032と重複があり、それよりも古い。方向は南側柱列でみると、西で6度55分北に偏する。柱間は南側柱列で約1.8m以上、西側柱列で約2.2mである。柱穴の平面形は方形であり、埋土はにい黄褐色砂質土を含む黒褐色粘質土である。柱穴の規模は1辺30~35cm、深さ30cmである。柱痕跡は直径10cmであり、埋土は黒褐色粘質土である。遺物は出土していない。

#### SX3032土器埋設遺構

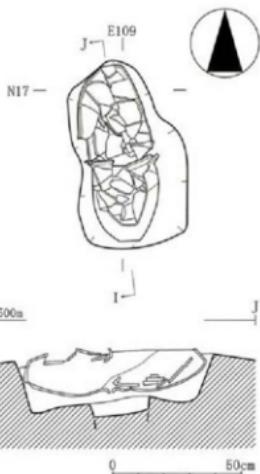
調査区北部の第IV層上面で発見した土器埋設遺構である。ロクロ調整の土師器長胴甕2個体を合口にして横位に埋設していた。SB3037と重複があり、それよりも新しい。据え方は長径0.74m、短径0.35m、深さ24cmであり、断面が逆台形状を呈している。方向は、長軸方向でみると、北で約6度西に偏する。埋土の状況から、先に北甕が潰れ、その陥没孔から土砂が南甕内に流入し、その後南甕が潰れたことが確認できた。甕内に内容物は存在しなかった。

#### SD3033溝跡

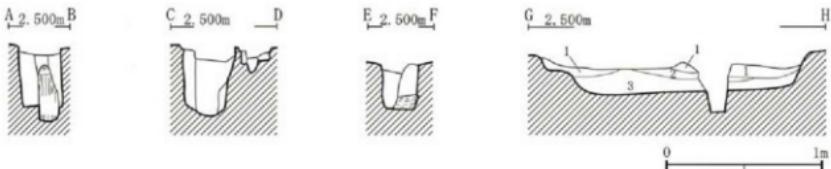
調査区北端部の第III層上面で発見した東西方向の溝跡である。調査区西端部でL字状に屈曲する。規模は上幅0.20m、下幅0.10m、深さ5~10cmである。埋土は灰白色火山灰ブロックを含む黒褐色砂質土である。

#### SD3034溝跡

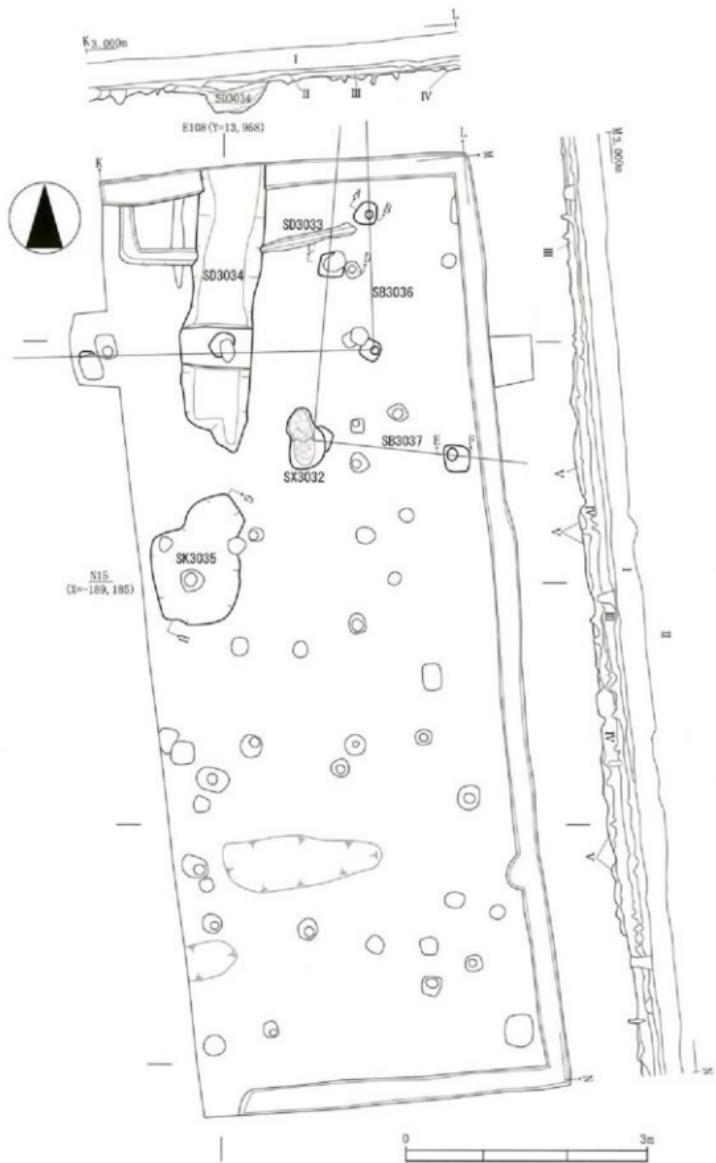
調査区北半部の第V層上面で発見した南北方向の溝跡である。長さ3.5mにわたって検出した。SD3033、SB3036と重複がありこれらよりも古い。方向は北で約3度東に偏する。規模は上幅0.82m、下幅0.32m、深さ34cmである。断面形は逆台形を呈している。埋土は5層に分けられ、上層から暗灰黄色砂、黃灰色粘質土、暗灰黄色粘質土、黒褐色粘質土、黒色粘質土である。遺物はロクロ調整の土師器杯・甕、須恵器杯



第7図 SX3032平面図・断面図



第8図 SB3036・3037、SK3035断面図



第9図 遺構平面図・断面図

（ヘラ切り・回転糸切り）・甕・瓶、製塙土器が出土している。

## SK3035土城

調査区中央部の第V層上面で発見した土壌である。長径1.76m、短径1.20m、深さ20cmである。断面形は浅い逆台形状を呈する。埋土は3層に分けられ、上層から黒褐色粘質土、炭化物を多量に含む黒褐色土、黄褐色砂質土である。遺物はロクロ調整の土師器杯・甕、須恵器杯（ヘラ切り・回転糸切り）・甕、丸瓦が出土している。

### 3.まとめ

今回の調査では、掘立柱建物跡2棟、土器埋設遺構1基、溝跡3条、土壌1基、小柱穴を発見した。

遺構の年代についてみると、第III層に覆われている遺構はロクロ調整の土師器が含まれていることから8世紀後葉から10世紀前葉、第III層上面で発見したものに関しては10世紀前葉以降と考えられる。

今回の調査で特筆すべき遺構として土器埋設遺構がある。同様の遺構は宮城県内で43基確認されている。その中でも36基が山王遺跡など多賀城周辺遺跡で発見されており、その他では仙台市安久東遺跡・古川市名生館遺跡、高清水町手取遺跡、築館町佐内屋敷遺跡、河南町須江関ノ入遺跡で7基発見されている（表）。多賀城周辺遺跡の中でも、多賀城南面の方格地割内から出土しているものが24基と圧倒的に多く、方格地割外では12基発見されている。前者のうち、道路上及びその交差点付近で確認されたものが15基、区画内（宅地部分）で発見されたものが9基であり、道路上で発見されたものは埋設方法が土師器甕の場合すべて横位で埋設されている。区画内で発見されたものは器種に関わらず8基が正位、1基が倒位で埋設されており、横位で埋設されているものはない。一方、後者や安久東遺跡、手取遺跡、佐内屋敷遺跡では18基中16基が土師器甕を横位で埋設している。

今回発見した埋設土器は、合口横位で埋設されおり、道路上・方割外の出土例に類似する。ところで、方格地割外の高崎遺跡弥勒地区・井戸戸地区の埋設土器や多量の灯明皿が出土した高崎遺跡第11次調査などは道路跡の推定線上に位置すると指摘されている（註）。今回の調査区では道路跡は発見できなかったが、埋設土器は東1道路の延長上に位置しており、道路上における埋設方法と類似していることが注目される。

註 井戸戸地区が南1道路、弥勒地区が北1道路、高崎遺跡第11次調査が南2道路の推定線上に位置している。（多賀城市教育委員会「高崎遺跡－第11次調査報告書－」1985年）

### 引用・参考文献

- 1976 「安久東遺跡発掘調査概報」仙台市文化財調査報告書第10集 仙台市教育委員会
- 1981 「宮城北自動車道遺跡調査報告書Ⅱ」宮城県文化財調査報告書第63集 宮城県教育委員会
- 1983 「東北自動車道遺跡調査報告書Ⅲ」宮城県文化財調査報告書第93集 宮城県教育委員会
- 1987 「高崎遺跡－都市計画道路高崎大代線外1線建設工事開連発掘調査報告書Ⅱ」多賀城市文化財調査報告書第12集 多賀城市教育委員会
- 1989 「高崎遺跡－中央公園開連調査報告」多賀城市文化財調査報告書第19集 多賀城市教育委員会
- 1990 「須江関ノ入遺跡－工業団地造成に伴う発掘調査概報－」河南町文化財調査報告書第4集 河南町教育委員会
- 1991 「多賀城市史 第4章 考古資料」多賀城市史編纂委員会
- 1992 「山王遺跡ほか」多賀城市文化財調査報告書第29集 多賀城市教育委員会
- 1993 「山王遺跡IV－多賀前地区考察編－」宮城県文化財調査報告書第171集 宮城県教育委員会
- 1997 「山王遺跡V－第2分冊（伏石地区・考察）－」宮城県文化財調査報告書第174集 宮城県教育委員会
- 1999 「名生館遺跡 下草古城木丸跡ほか」宮城県文化財調査報告書第181集 宮城県教育委員会
- 1999 「小代原・高崎遺跡－史跡連結線開連遺跡発掘調査報告書－」多賀城市文化財調査報告書第54集 多賀城市教育委員会
- 1999 「市川横遺跡－城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書－」多賀城市文化財調査報告書第55集 多賀城市教育委員会
- 2001 「市川横遺跡－城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書Ⅰ－」多賀城市文化財調査報告書第60集 多賀城市教育委員会
- 2003 「市川横遺跡－城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書Ⅱ－」多賀城市文化財調査報告書第70集 多賀城市教育委員会
- 2003 「市川横遺跡」宮城県文化財調査報告書第193集 宮城県教育委員会

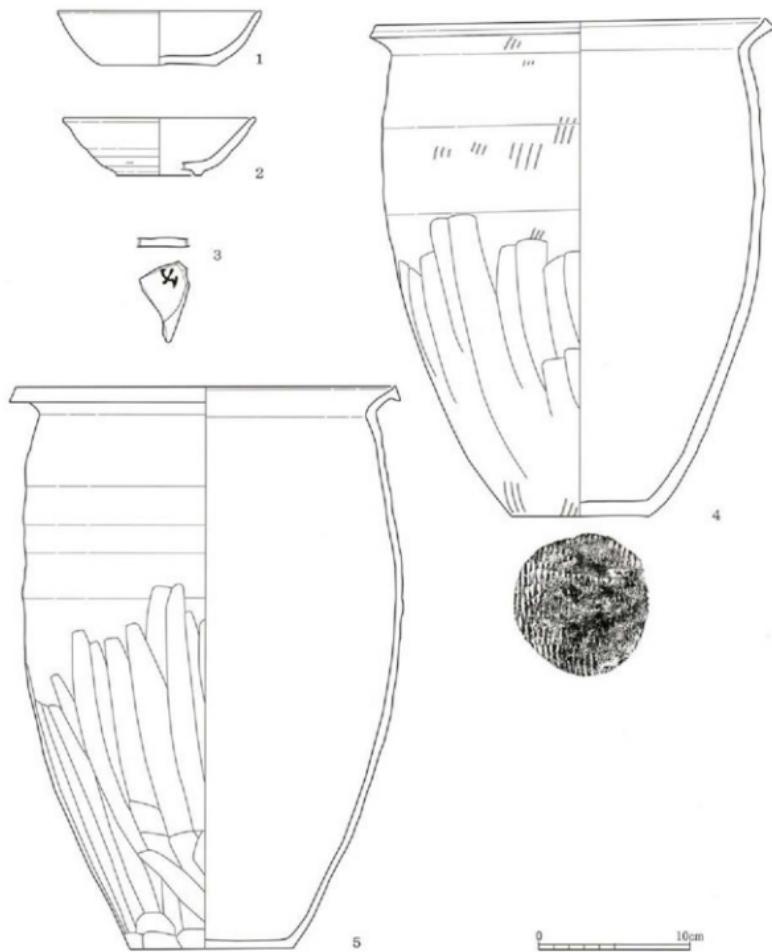
遺跡	位置	状態	埋設方法	文献
1 山王遺跡多賀前地区	北1・西3交差点	土師器甕1	横位	県167集
2 山王遺跡多賀前地区	北1・西3交差点	土師器甕合せ口	横位	県167集
3 山王遺跡多賀前地区	北1・西3交差点	土師器杯・甕合せ口	横位	県167集
4 山王遺跡多賀前地区	北1・西3交差点	土師器杯2	正位	県167集
5 山王遺跡多賀前地区	北1・西3交差点	須恵器杯1	正位	県167集
6 山王遺跡多賀前地区	南1・西1交差点	土師器甕1	横位	県167集
7 山王遺跡多賀前地区	南1・西1交差点	土師器甕1	横位	県167集
8 山王遺跡多賀前地区	南2・西0付近	土師器甕2合口	横位	県167集
9 山王遺跡多賀前地区	南2・西0付近	土師器甕2合口	横位	県167集
10 山王遺跡八幡地区	北2・西4交差点	土師器高台付皿2	正位	県141集
11 山王遺跡八幡地区	北2・3間・西5交差点	土師器甕1	横位	県138集
12 山王遺跡八幡地区	北2道路路面上	土師器甕2合口	横位	県138集
13 山王遺跡八幡地区	北2・西6交差点	土師器甕2合口	横位	市29集
14 山王遺跡東町浦地区	東西大路・西9交差点	土師器甕1	横位	市22集
15 山王遺跡東町浦地区	東西大路・西9交差点	土師器甕1	横位	市22集

16 高崎遺跡弥勒地区		土師器甕2合口	横位	市19集
17 高崎遺跡井戸尻地区		土師器甕2合口	横位	市12集
18 高崎遺跡表地区		土師器甕1	横位	市史
19 高崎遺跡第12次		土師器甕1	正位	市54集

20 山王遺跡多賀前地区		土師器甕1	正位	県167集
21 山王遺跡多賀前地区		土師器杯2入子	逆位	県167集
22 山王遺跡多賀前地区		土師器甕1・杯2入子合口	正位	県167集
23 山王遺跡多賀前地区		土師器杯1・須恵系土器1合口	正位	県167集
24 山王遺跡多賀前地区		土師器杯1・須恵系土器2合口	正位	県167集
25 山王遺跡多賀前地区		土師器甕1	正位	県167集
26 山王遺跡多賀前地区		土師器甕1・須恵系土器4合口	正位	県167集
27 市川橋遺跡伏石地区		須恵器杯1	正位	県174集
28 市川橋遺跡伏石地区		土師器甕1	正位	県174集
29 市川橋遺跡中谷地地区		土師器甕2合口	横位	県193集
30 市川橋遺跡中谷地地区		土師器甕2合口	横位	県193集
31 市川橋遺跡中谷地地区		土師器甕2合口	横位	県193集
32 市川橋遺跡中谷地地区		土師器甕2合口	横位	県193集
33 市川橋遺跡中谷地地区		土師器甕2合口	横位	県193集
34 市川橋遺跡中谷地地区		土師器甕2合口	横位	県193集
35 市川橋遺跡中谷地地区		土師器甕1	横位	県193集
36 市川橋遺跡中谷地地区		土師器甕1	横位	県193集

37 仙台市安久東遺跡		土師器甕2合口	横位	仙台市10集
38 仙台市安久東遺跡		土師器甕2合口	横位	仙台市10集
39 高清水町手取遺跡		土師器甕3合口	横位	県63集
40 菜館町佐内屋敷遺跡		土師器甕2合口	横位	県93集
41 古川市名生館遺跡		土師器甕2合口	横位	県181集
42 河南町須江関ノ入遺跡		土師器甕2合口	横位	河南町4集

表 宮城県内の土器埋設遺構



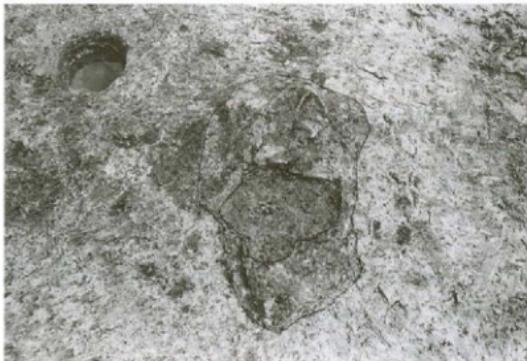
(単位: cm)

番号	種別	器種	遺構	外面調整	内面調整	口径	底径	器高	備考	写真図版	登録番号
1	須恵器	杯	SD3034	底部: ヘラ切り		13.4	7.6	3.6		3	R2
2	灰釉陶器	小碗	SB3036	角高台 回転ヘラケズリ	自然輪(12.8)	(5.6)	3.8			4	R1
3	須恵器	杯	SD3034	底部: ヘラ切り					墨書「子」	5	R3
4	土師器	甕	SX3032	タタキ→ロクロナデ→ヘラケズリ	ロクロナデ	25.6	9.1	33.0	北甕	1	R4
5	土師器	甕	SX3032	ロクロナデ→ヘラケズリ		25.8	10.8	37.3	南甕	2	R5

第10図 出土遺物実測図



調査区全景（南より）



SX3032検出状況（北より）



SX3032壺検出状況



1 a



1 b



2



3



4



5

1 · 2 土師器塵

3 須惠器杯

4 灰釉陶器小椀

5 墨書土器

## IV 高崎遺跡第42次調査

### 1. 調査に至る経緯と経過

本調査は、宅地造成計画に伴う確認調査である。当該区の工事計画については、開発業者であるタクミホーム㈱が遺跡の範囲内にあることに気づかなかったことから、文化財保護法に基づく届出がなされないまま宅地造成が行われ、平成14年12月に販売広告が出されたことにより明らかとなつたものである。当教育委員会では直ちにタクミホーム㈱と連絡を取り、事情を確認すると共に、今後の対応について宮城県教育庁文化財保護課も交えて協議を重ねた結果、文化財保護法に基づく届出の提出と、宅地内の調査を実施することで合意を得た。

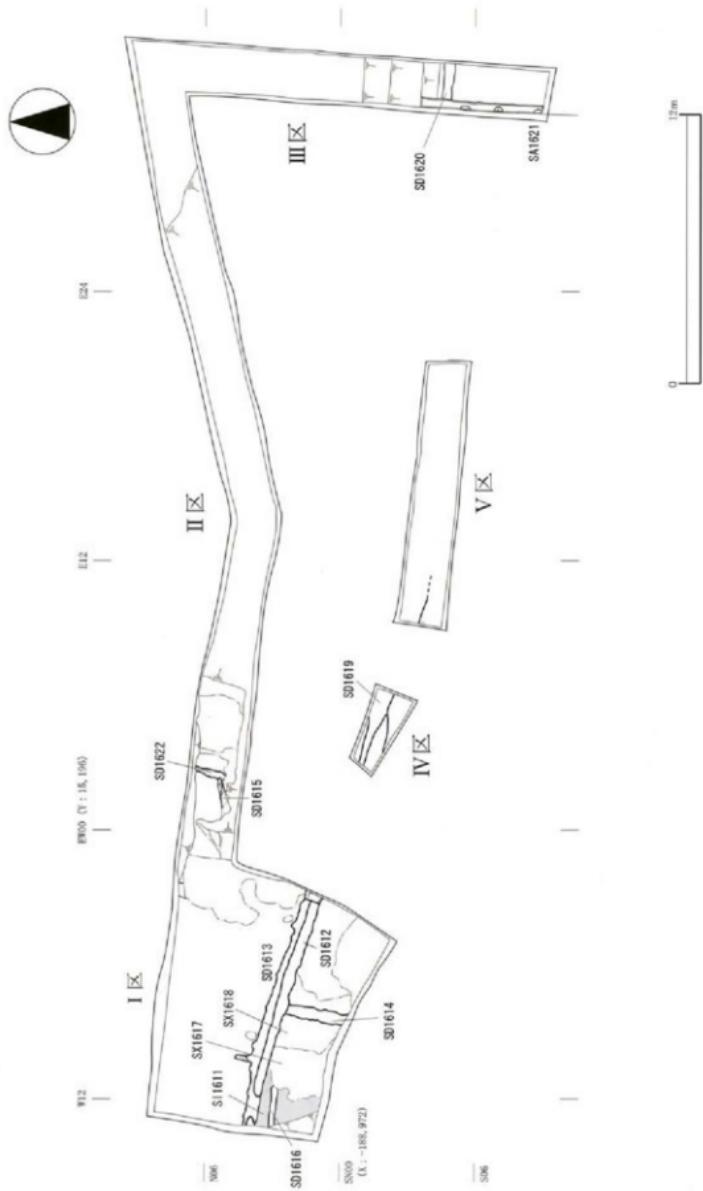
平成15年4月21日、重機を導入し、遺構の有無を確認するための試掘調査を実施した。その結果、対象区西側にS I 1611堅穴住居やS D 1612・1613溝などの遺構が発見されたことから、より広範囲を対象とした調査の実施が必要となった。タクミホーム㈱と協議を行い、確認調査の実施について了承を得た。4月25日付で発掘調査の依頼書及び承諾書の提出を受け、4月30日に発掘調査に関する受託契約の締結を行い、5月6日から重機を導入して表土除去に着手した。調査に際し、対象区内にI～V区のトレーニングを設定した（第12図）。

その結果、II区中央部からIII区北半部は、本造成が行われる以前に掘削を受けており、遺構の残存状況が非常に悪いことが明らかとなつた。一方、I区でも遺構は存在するものの、II区と同様に大部分が掘削されていることが判明した。IV・V区については、I・II区から1～1.5m程低い平坦面となっているが、SDI1612の延長と考えられるSDI1619を確認することができた。5月7日から作業員を導入し、遺構の精査を行う。また、年代を把握するため、最も新しいI区のSDI1612の埋土除去を行うとともに、III区の土層堆積状況の確認を行う。5月14日、実測図作成のための基準点（EW00：Y15,196、SN00：X-188,972）を設置し、同日午後から平面図及び断面図の作成を開始する。5月15日、平面図・断面図の確認を行い、器材搬出を終えて現地調査を終了した。



第11図 調査区の位置

第12図 連構配置図



## 2. 調査成果

### (1) 層序

I 区及びII区では、盛土を除去すると直ちにぶい黄褐色粘質土の地山が現れる。いずれの遺構も、この層の上面が確認面となっている。一方、III・IV・V区では、現代の盛土も含め厚い堆積土に覆われておらず、このうちIII区では第I～IX層の基本層序に区分することができた。各層の概要については、以下のとおりである。

第I層 表土。現代の盛土である。

第II層 黄褐色土層。III区北側から中央付近にかけて確認できる。均質で非常に硬く締まっている。炭化物、凝灰岩が若干混入する。南側に向かうほど厚く堆積している。

第III層 オリーブ褐色土層。北側から中央部にかけてほぼ均等の厚さで堆積しているが、南側で若干厚くなる。

第IV層 褐色粘質土層。

第V層 黄褐色土層。地山ブロックが若干混入する。

第VI層 黄褐色土層、にぶい黄褐色土層。地山ブロックが混入する。

第VII層 黄褐色土層。地山ブロックが混入する。

第VIII層 にぶい黄褐色砂質土。SA1621、SD1620の確認面である。

第IX層 にぶい黄褐色粘質土層。古代の遺構の最終確認面である。

### (2) 発見した遺構と遺物

#### SI1611豊穴住居跡

I区南西部で発見した住居跡である。表土を除去した段階で床面の大部分が露出しており、残存状況は悪い。SD1612・1613・1616、SX1617と重複しており、それより古い。西辺と南辺は調査区外に位置し、東辺についても確認できなかったため、平面形や規模については不明である。床面は明黄褐色粘質シルトに白色凝灰岩及び黒褐色粘土が多量に混入する貼床である。周溝はSD1612・1613埋土除去後に、部分的に確認した。規模は上幅約14cmであり、埋土は褐色粘質土である。カマドは北辺に設置されているが、SD1612・1613により掘削されているため、燃焼部底面と煙道が確認されるのみである。煙道は長さ約1.3m、幅約20cmである。

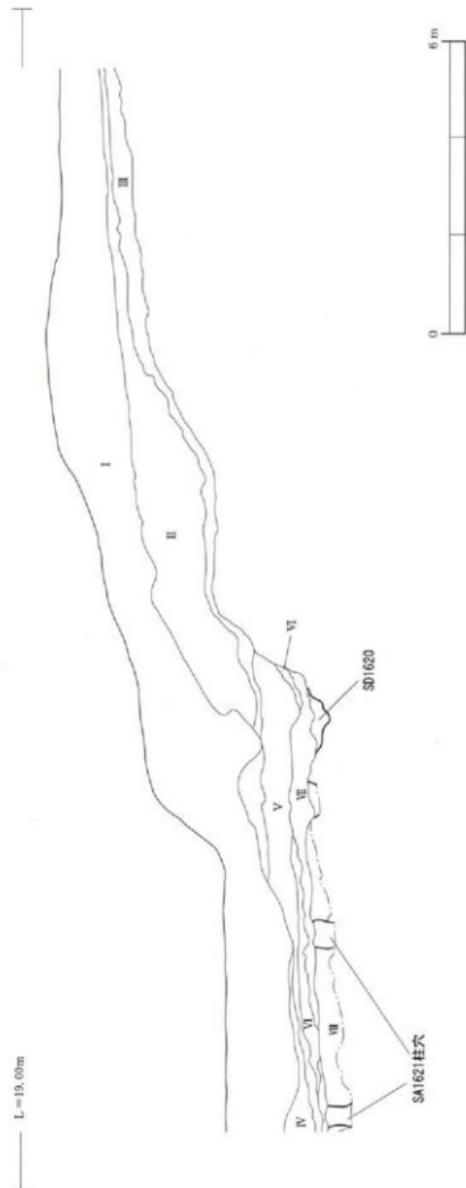
#### SA1621柱列跡

III区南端部で発見した南北2間以上の柱列である。全体を検出してないため詳細は不明であるが、北側から1間目の柱穴で柱痕跡を確認した。柱列の長さは、2間分で3.2m、柱間は北側より約1.4m、約1.8mである。柱穴の規模は直径30～35cmの円形であり、埋土は褐色土に白色凝灰岩粒が多量に混入する。柱痕跡は直径14cmであり、埋土はにぶい黄褐色土である。

#### SD1612溝跡

I区で発見した東西溝である。方向や埋土が類似するIV区のSD1619と一連の溝跡と推測すれば、長さ20mにわたって検出したこととなる。SI1611、SD1613・1614、SX1617・1618と重複し、それよりも新しい。方向は、東で約15度南に偏している。規模は、上幅35～55cm、下幅24～33cm、深さ約15cmである。断面形は中央付近ではU字状、それ以外は皿状を呈している。底面は西から東へ傾斜しており、比高

第13圖 III區西壁斷面圖



差は約15cmである。埋土は、にぶい黄褐色土と明黄褐色土がブロック状に混入している。

遺物は須恵器杯・甕・長頸瓶、土師器杯・甕、鉄滓が出土している。

#### SD1613溝跡

I 区の地山面で発見した東西溝で、長さは約10.7mにわたって検出した。S I 1611、S D 1612と重複し、S I 1611より新しく、S D 1612より古い。方向は東で約15度南に偏している。規模は、上幅53~83cm、下幅約54cm、深さ13~15cmである。断面形は皿状を呈する。底面は西から東へ傾斜しており、比高差は27cmである。埋土は黄褐色土を主体とする自然堆積土であり、やや砂粒を含む。

遺物は須恵器杯が出土している。

#### SD1614溝跡

I 区 S X 1618上面で発見した南北溝で、長さ約3.1mにわたって検出した。S D 1612と重複し、これより古い。方向は北で約10度東に偏している。規模は上幅42~57cmである。埋土は、炭化物が混入する明黄褐色粘質土である。

#### SD1615溝跡

I 区西端部で発見した東西溝である。S I 1611、S X 1617と重複し、前者よりも新しく、後者よりも古い。長さは約3mにわたって検出した。方向は東で約12度南に偏している。規模は、上幅25~30cmである。埋土は、焼土粒、炭化物粒、凝灰岩粒が多量に混入する暗褐色粘質土である。

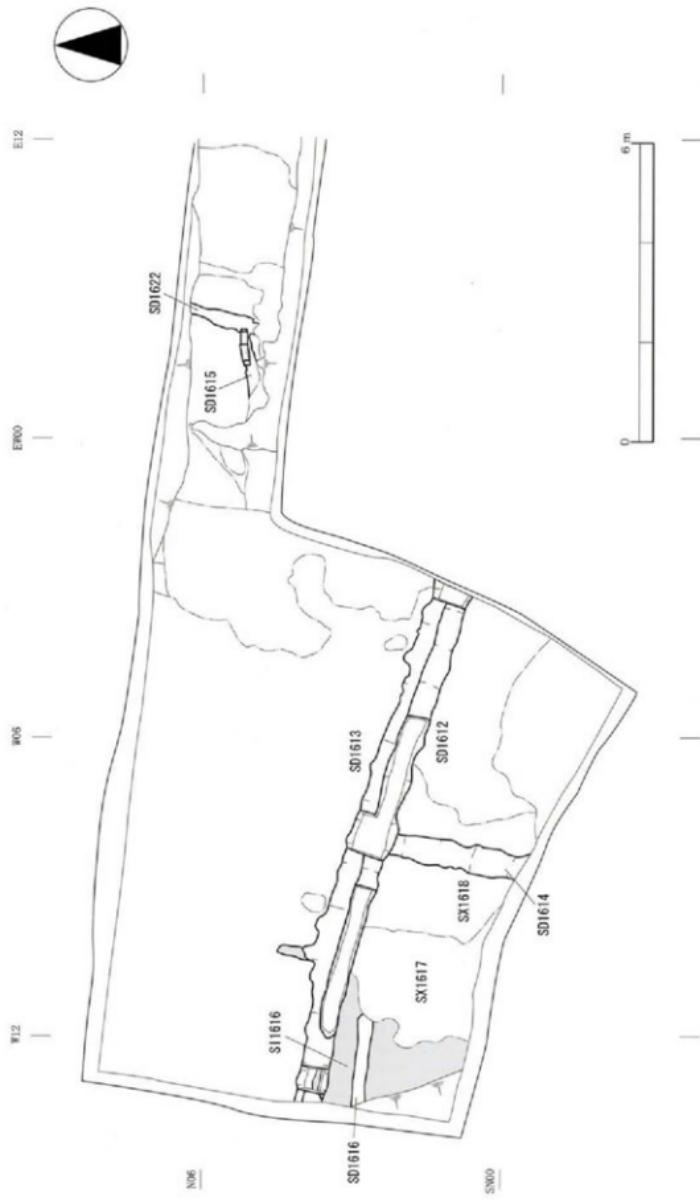
#### SD1616溝跡

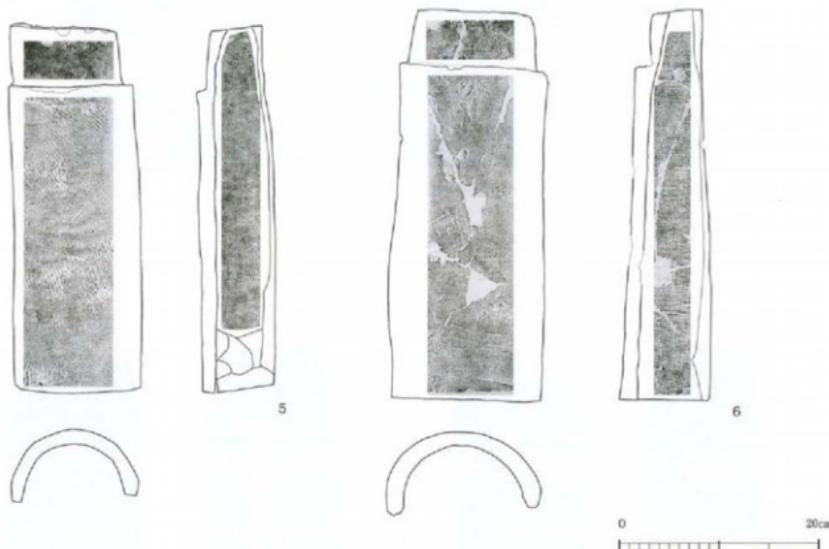
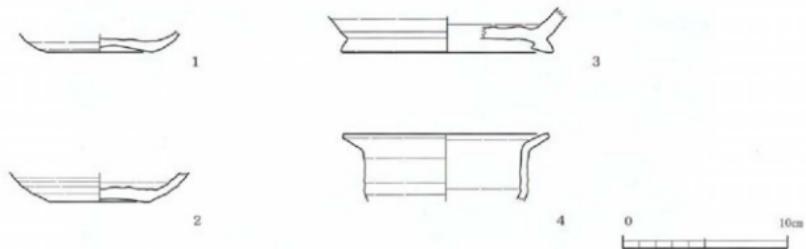
II 区西端部の地山面で発見した東西方向の溝で、東端で南北方向のSD1622と接続する。後世の削平で底面付近まで掘削が及んでおり、残存状況は悪い。長さは1.3m検出した。上幅19~32cmであり、丸瓦を暗渠状に伏せている。

### 3.まとめ

今回の調査では、竪穴住居跡1軒、溝跡9条を発見した。調査の性格上、遺構の平面的な調査にとどめたため、これらの年代についての詳細は明らかでない。ただし、SD1612・1613、SX1617からは、底部の切り離しがヘラ切り、および回転糸切りの須恵器杯やクロ調整の土師器杯・甕が出土していることや、10世紀前後に出現する須恵系土器が全く出土していないことから、これらの遺構についてはおよそ8世紀後葉から9世紀頃のものと考えられる。

第14図 I・II区遺構平面図





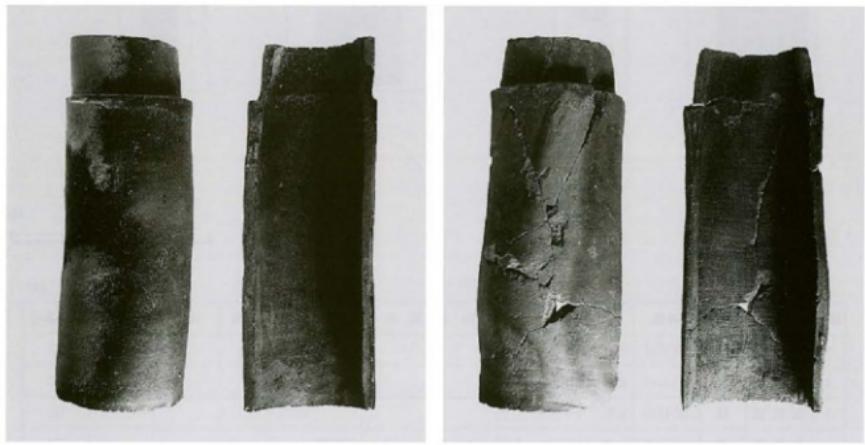
(単位: cm)

番号	種別	器種	遺構	外面調整	内面調整	口径	底径	器高	備考	写真図版	登録番号
1	須恵器	杯	SX1617	底部: ヘラ切り			(6.8)				R1
2	須恵器	杯	SX1617	底部: 回転糸切り			(6.1)				R2
3	須恵器	瓶	SD1620	回転ヘラケズリ			(13.0)				R3
4	土師器	甕	SX1617	ロクロナデ	ロクロナデ	(12.6)					R4
5	丸瓦		SD1615	II B a類						左下	R5
6	丸瓦		SD1615	II B a類						右下	R6

第15図 出土遺物実測図



I 区遺構検出状況（南東より撮影）



SD1165出土丸瓦

## 報告書抄録

ふりがな	いちかわばしいせき・たかさきいせき							
書名	市川橋遺跡・高崎遺跡							
副書名	市川橋遺跡第30・36次調査 高崎遺跡42次調査							
シリーズ名	多賀城市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第72集							
編著者名	鈴木孝行・武田健市・斎藤稔・文屋亮							
編集機関	多賀城市埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒985-0873 宮城県多賀城市中央二丁目27番1号 TEL022-368-0134							
発行年月日	西暦2003年9月30日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
市川橋遺跡 (第30次調査)	宮城県 多賀城市 浮島字矢中	042099	18008	38度 17分 54秒	140度 59分 34秒	20021031 ~ 20021205	582m <sup>2</sup>	管理棟 建設
市川橋遺跡 (第36次調査)	宮城県 多賀城市 浮島字高平	042099	18008	38度 17分 43秒	140度 59分 33秒	20030410 ~ 20030423	52m <sup>2</sup>	店舗兼 集合住宅 建設
高崎遺跡 (第42次調査)	宮城県 多賀城市 留ヶ谷一丁目	042099	18018	38度 17分 50秒	141度 00分 27秒	20030506 ~ 20030520	268m <sup>2</sup>	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
市川橋遺跡 (第30次調査)	古代都市	奈良 平安	水田跡 柱列跡	土師器、須恵器、 須恵系土器、瓦		南北大路の東側を調査 し、10世紀前葉頃の水 田跡を発見した。		
市川橋遺跡 (第36次調査)	古代都市	奈良 平安	掘立柱建物跡 溝跡、土壤、 土器埋設遺構	土師器、須恵器、灰釉 陶器、墨書き土器、瓦		土師器甕を合口にした 土器埋設遺構を発見し た。		
高崎遺跡 (第42次調査)	集落跡	奈良 平安	竪穴住居跡 溝跡	土師器、須恵器、瓦				

---

多賀城市文化財調査報告書第72集

## 市川橋遺跡・高崎遺跡

- 市川橋遺跡第30次調査 -
- 市川橋遺跡第36次調査 -
- 高崎遺跡第42次調査 -

平成15年9月30日発行

編集 多賀城市埋蔵文化財調査センター  
多賀城市中央二丁目27番1号  
電話(022)368-0134

発行 多賀城市教育委員会  
多賀城市中央二丁目1番1号  
電話(022)368-1141

印刷 有限会社工陽社  
宮城県塩竈市尾島町8番7号  
電話(022)365-1151

---

